

テーマ：インフラ・防災

新潟県 粟島浦村

2024.3.1-4

今回私たちは、新潟県北部の日本海に浮かぶ「粟島」にお邪魔させていただき、防災・インフラについての取材に行ってきました。

「粟島」とは

粟島は、島民が約350人で周囲は約23km、自転車を使って3時間で島を一周することができる小さな島です。透き通った海や大自然、新鮮な魚介類、島に暮らす人々の温かさで溢れています。

島内の電気は、島外から運んできた油を使って火力発電所で発電しており、島民が使う電気は島内で賄われています。また、保育園・デイサービス・通所介護・診療所の複合施設があることや、島内には消防署が無いため、島民で消防団を結成するなど、人が少ないからこそ島民同士の連携が大切です。

また、「しおかぜ留学」という制度を導入しており、粟島浦小学校・粟島浦中学校に入学・転校希望する児童を受け入れ、島の人たちとの交流を通して社会性を身に付ける新しい教育の挑戦を行っています。現在「しおかぜ留学」をしている児童は16名です。それにともなって移住者に対する住まいの確保や制度も充実しています。



粟島汽船



粟島浦村消防団の方々



移住者用の住居(建設中)



しおかぜ留学で交流できる島馬「タマユキ」

粟島のインフラについて

粟島では、「しらせあい」というアプリを活用し、天気、粟島汽船の運航状況・予約など住民のみに関わらず、観光客などにも有益な情報を発信したり、島内どこでもネットを利用することができます。無料でネットが使えることで格安の携帯利用料金で済み、離島でも不自由なことがなく、島民・島外の両者が得するという関係性を築くことができます。

また、「しらせあい」を導入することで、将来的には回覧板を電子化して島民一斉に送れるようにすることが、さらなる島の発展につながるという狙いを持っています。



栗島の防災について

土砂崩れによる被害があったとき、釜谷地区はさっこい交流館、内浦地区は栗島浦小学校・栗島浦中学校体育館に避難します。そして、地震による津波の被害が想定される場合は、住まいの近くの高台に避難し、内浦地区は栗島浦小学校・栗島浦中学校、八所神社、釜谷地区は六社神社（備蓄倉庫）に避難します。しかし、トイレや暖房などの設備不備などから実際に避難する人が少なかったという問題点が、今年の元日に起こった能登半島地震で明らかになりました。



八所神社(風の三郎様)

栗島浦村消防団について

栗島浦村には消防署がないため、火事が起きたときには地域の人たちで協力し、火を消すことが求められます。そのため、消防団講習では、基礎的な動き(消防訓練礼式の基本的動作)を入念に行い、チームの士気を高め、実際の火事を想定した操法訓練を行っています。1つひとつの動きが終わると団員同士で繰り返し確認し合い、上下関係に関わらず話し合う姿がありました。

また、栗島は昔から漁業が盛んだったため、男性が海に出ているときの島内は女性がほとんどで、火災が起こったときには、女性の力で対処する必要がありました。そのため、現在も消防団員の中には女性の姿がありました。消防署がないからこそ、男女共に協力し、地域の人々は火事が起こらないように細心の注意を払っています。

過去に大規模な火災が起こったことをきっかけに、さらに火の元を確かめるようになったと言います。過去の出来事を無駄にせず、住民が安心して過ごせる島を作っていくのが消防団の務めであると考えています。



消防訓練の様子(操法訓練)



消防訓練の様子(重機を使った訓練)

今回の活動を通して感じた課題・問題

粟島では島民、観光客の減少が一番の課題だと考えます。後継者不足や島民の高齢化など現代の日本の課題ともいえる状況が島内でも見受けられます。災害が起こったときの避難や消防活動でも、若手の

力が必要になってきます。その状況を打破するために私たちが考えた案として、

1. 「しおかぜ留学が出来る年齢層を広げ、小学生から大学生を対象にする」

しおかぜ留学のみに限らず、ワーキングホリデーのような期間限定で参加できるようにすれば、島を訪れるきっかけ作りにもなる。そして高校生、大学生になると友達同士で島に来やすくなり、思い出を作りながら島の良さを知ることができる。その結果、また来たいという気持ちにつながる。

2. 「あらゆる方面から粟島の魅力を伝える」

海、山などの自然が好きな人、落ち着いた環境で子育てがしたい人、島に移住したい人、キャンプなどのアウトドアを楽しみたい観光客の方々に粟島の魅力をホームページ、インスタグラム、紙媒体などフルに活用し伝える。

3. 「避難場所の設備を整える」

避難場所の暖房やトイレなどの設備不備から実際に避難する人が少なかったという問題点が元日の能登半島地震で明らかになったため、設備をきちんと整えることで近くの人々が避難しやすくなるを考える。

最後に...

今回初めて粟島にお邪魔させていただいて、自然の豊かさはもちろんのこと、島民の方々の温かさに触れ、また粟島を訪れたいと強く思いました。この記事を通してより多くの人に粟島の魅力を知っていただき、実際に島へ訪れて、その魅力を体感してほしいです。Let's go to AWASHIMA!

**4日間という短い間でしたが、様々なことを丁寧に教えてくださった島民の皆様
本当にありがとうございました。**



粟島浦村消防団の皆様と📷

♡BIG LOVE♡

《本取材は、一般社団法人北陸地域づくり協会の研究助成事業の支援により実施いたしました。》